

事後評価シート

コード 7-2-4	事務事業名 心身障害児通所訓練(ひよっこ)事業	所管部課 児童青少年部保育課
--------------	----------------------------	-------------------

事務事業の概要	事務事業の目的 障害児をもっている乳幼児を、隣に設置されている市立保育園の入所児と一緒に保育する中で、児童の持っている能力を十分に発揮させる様、地域や家庭と協力し合い、保育・更正訓練・生活指導等を行い社会的自立を助ける。	事業の区分 <input type="checkbox"/> 総合計画 <input type="checkbox"/> 行革項目 <input checked="" type="checkbox"/> その他の事務事業
	実施内容、実施方法 心身に障害を有する児童に対し、生活保育訓練・言語聴覚士・理学療法士による個別指導・親子トレーニング	根拠法令等 西東京市心身障害児通所訓練施設ひよっこ条例
	事業開始時期 昭和 57 年度	実施形態 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他 ( )

評価指標の設定	活動指標名 開所日数	活動指標の考え方(定義) 施設を一年間に開所していた日数
	成果指標名 1次 利用児童数	成果指標の考え方(定義) 1次 利用した児童数(月平均)
	1次	1次
	2次 待機児童数	2次 待機児童がどの程度減ったかをみる。

		単位	15年度	16年度	17年度	18年度
事務事業データ	事業費(A)	千円	17,623	17,290	17,687	17,899
	国庫支出金					
	都支出金		9,189	8,509	8,421	8,509
	地方債					
	その他					
	一般財源	8,434	8,781	9,266	9,390	
	所要人員(B)	人	3	3	3	3
	人件費(C)=平均給与×(B)	千円	24,819	24,984	24,555	24,555
	総コスト(D)=(A)+(C)	千円	42,442	42,274	42,242	42,454
	単位当たりコスト (E)=(D)/ ( 入所児童数 )	千円	3,858	3,843	4,224	#DIV/0!
歳入	千円	543	550	580	580	
活動指標	目標値	日			244	245
	実績値	日	246	243	244	
活動指標	目標値					
	実績値					
1次成果指標	目標値	人	11	11	11	
	実績値	人	11	11	10	
1次成果指標	目標値					
	実績値					
2次成果指標	目標値	人			0	
	実績値	人	10	11	0	

事業環境	市民・関連団体等の意見 (アンケート結果など)	
	26市のサービス水準との比較 (平均値、本市の順位など)	当該事業は、保育施設での健常児との統合保育を通じて療育及び訓練を図る目的とし、その点に特質があり、26市の多くで実施している事業ではない。実際、原課としては同一の事業をしている団体は把握しておらず。比較対照は難しい。
	運営上の制約条件・外部要因等	

コード 7-2-4	事務事業名 心身障害児通所訓練(ひよっこ)事業	所管部課 児童青少年部保育課
--------------	----------------------------	-------------------

【事業所管部評価】

検証項目	選択基準	ランク	選択理由、特記事項等
1 目的の適切さ・目標	目的の妥当性 4 上位施策と目的が合致しており、施策に対する貢献度は他の事業と同程度である	▼	4 入所希望の待機児あり、事業の継続を要する。
	目標の妥当性 2 目標を定量的に設定できないが、定性的には設定している	▼	
	緊急性 2 目的をある程度達成しているため、実施の有無について検討の余地がある	▼	
2 市の必要性	法的義務性 2 法律・条例での規定はないが、通達や要綱・要領で実施が規定されている	▼	2 市立保育園児との関わりによって児童の持っている能力を引き出せる。
	必要性 2 豊かな市民生活の形成に寄与するサービスである	▼	
	民間との役割分担 4 他に同種・類似サービスを提供しているのは、他の公共団体のみである	▼	
3 内容の適切さ	ニーズ 2 市民(市内)ニーズが推測でき、推測に見合ったサービスであることを説明できる	▼	2 対象は一部の児童ではあるが社会的自立を助長するためにも内容とも充実している。
	規模・方法の妥当性 1 事業規模や方法は過去を踏襲しており、特に見直していない	▼	
	公平性 2 直接の対象は、特定属性の一部の市民または団体である	▼	
4 実施手段の適切さ	有効性 5 これまで質・水準の改善に積極的に取り組んできており、成果が向上している	▼	5 類似した他事業との関わり等を検討する必要がある。
	効率性 1 具体的な計画や目標等に基づいたコスト低減には特に取り組んでいない	▼	
	独自性 2 市内に同種の目的を有する(類似・重複を含む)他の事務事業がある	▼	
合計			29

	評価結果	判断理由、説明等
総合評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続実施 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止	平成17年度当初は待機児すべてが入所できたが、情報の周知などで入所申請が増え、定員11名の枠に現在順番を待っている状況である。類似した事業で「こどもの発達センターひいらぎ」があり、今後統合事業として検討を必要とする。

18年度における改善点	ノーマライゼーションを具現化した事業展開をしているひよっこであるが、ここで類似している事業及び費用負担についても再検証する必要があると考える。 支援費制度導入時にひよっこ事業についても、歳入について検証されたが都補助のいまのままの方が市としてメリットがあったので導入等が見送られた経緯があり、合併当時市民に対しひよっこをそのまま残すとした経緯も留意せねばならない。
-------------	---

二次評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input checked="" type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止	本事業は他市においては実施されていない。通常の保育園でも障害児を預かっていることを考慮すると、将来的には「ひいらぎ」との統合も検討し、ノーマライゼーションを具体化した保育の実施もありうるのではないと思われる。 また、現在、利用者はおやつ代のみの負担であり、他のサービスは無料である。市立保育園及び「ひいらぎ」の保護者は、相応の負担をしていることから、ひよっこ入園者にも相応の負担を求めるべきである。受益者負担の観点から、利用料金の見直しが必要。
------	---	---

行革本部評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input checked="" type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止	事業のあり方については、保育か療育かとの考え方が異なるものの、将来的には、総合評価、二次評価記載のとおり、類似事業である「ひいらぎ」と関連に留意し、より効果的な事業内容となるよう再構築を検討する必要がある。 また、事業実施にあたって受益を得る者が相応に負担するという観点からの検討が必要であり、その点を踏まえて関係機関との調整を図られたい。 よって、本事業においては、将来的な事業のあり方や受益者負担について検討し、関係機関との調整を図られたい。
--------	---	---